



松くい虫から守られた松を視察

〔視察日程〕
8月26日～27日
〔視察研修先〕
秋田県にかほ市
山形県川西町

〔参加議員〕
瀧澤征幸
新田勝見
萩野幸弘

◆「九十九島（象潟）の松をまもる会」の活動について
国指定天然記念物「九十九島（象潟）」の景観の中核をなす松を松くい虫から守り、美しい景観を後世に引き継ぐため、平成11年に「まもる会」を発足した。平成12年ころから毎年行われた黒松の伐倒は、平成24年度にはゼロとなりほぼ終息させるまでとなった。

面白いのは、国の文化財は松ではなく、島の地質、土、岩であることである。

松を守るために伐倒、薬剤樹幹注入、無人ヘリ防除、草刈り、種の採取と育苗を続け、市や企業、そしてこのボランティア団体の守る会が悪戦苦闘しながら象潟景観を守ってきている。

遠野市においても松くい虫対策が急務であると認識するが、松く

◆「NPOきりよししまネットワーク」の活動について
NPOきりよししまネットワークは、行政と対等の立場で新たな地域づくりや子育て等を実践しており、年数をかけた人材育成のシステム化や住民ワークショップなどにより、行政や県・国までを動かして新たな地域づくりの実践と様々な提言を行っている。

地区公民館の公設民営化と同時に職員を役場に引き上げる流れのなかで、住民主導でのNPOを立ち上げたのである。少子高齢化の後継者不足、活動のマンネリ化、若者の出番不足などを解消すべく、様々なプログラムが用意されていた。行政が本来やるべき？こ



きりよししまネットワークの取り組みを学ぶ

ボランティアで松くい虫防除 緑風会視察研修

とがらのそのほとんどをこのNPOは実践しているから驚きであった。行政のやるべきこと、地域がやるべきことを明確にし、向こう30年を見通した地域計画を着実に実践化している。

今後遠野市が小さな行政を目指すなら、NPOきりよしの地域づくりの手法や活動は大いに参考になるのではないか。



国会議事堂も視察

〔視察日程〕
7月30日～31日
〔視察研修先〕
東京都千代田区
国会議事堂
衆議院第2議員会館

〔参加議員〕
菊池邦夫
荒川栄悦
新田勝見
浅沼幸雄
菊池民彌
照井文雄
菊池巳喜男
佐々木大三郎
瀧本孝一

◆農政改革についての勉強会
国会議事堂を見学後、衆議院第二議員会館地下の第10会議室に移動し、この視察研修のメインである「農政改革について」と題した勉強会となった。農林水産省農政関係担当職員7名を講師に◆農地中間管理機構の創設◆経営所得安定対策の見直し◆水田フル活用と米政策の見直し◆日本型直接支払制度の創設、以上4つの改革について、それぞれの担当者からパンフレットの資料により国の考え方や内容の説明を受けたが、内容的には、これまで市から受けている説明と大差はないものであった。

今日の我が国の農業の現状は、農業従事者の高齢化、耕作放棄地の拡大などの課題が生じ、担い手への集積や生産コストの低減、一

般国民（納税者）への説明責任や納得などを構造改革をさらに加速化させていく必要がある、そのためにも農業を足腰の強い産業としていくための政策（産業政策）と、農業・農村の有する多面的機能の維持及び発揮を図るための政策（地域政策）を車の両輪として推進し、関係者が一体となった課題の解決に向けて取り組まなければならないというのが国の考え方である。

説明後、当市議員側から一人一問の質疑時間となったが、中山間地である遠野市の現状と課題や制度への疑問点を相手方に訴えることが出来たことは、双方とも貴重な収穫と成り得たのではないかと思われた。



橋本衆議院議員に要望書を手渡す